



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

宮城県 気仙沼市立津谷中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名：JOCオリンピック教室
- 主催：公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援：スポーツ庁
- 協力：公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象：中学2年生
- 講師：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間：2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数：80校程度
- 実施方法：クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、チームワーク、フェアプレー、身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基
づく「オリンピックの価値」等を
伝える



個人またはグループワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック** : 勅使川原 郁恵 先生 (スケート/ショートトラック)
【出場オリンピック/長野1998冬季大会、ソルトレークシティ2002冬季大会、トリノ2006冬季大会】
- **期 日** : 2022年7月14日(木)
- **ク ラ ス** : 2年1組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・スケート/ショートトラックのスピードスケート競技で3大会(長野1998、ソルトレークシティ2002、トリノ2006の各冬季大会)に出場したと自己紹介後、スケート競技について、スピードスケート、フィギュアスケート、ショートトラックの3種別があり、ショートトラックは1周111.12mのコースを4人や6人で一斉にスタートし、順位を競う。東京2020大会をテレビ等で観戦したと思うが、オリンピックには、オリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」が含まれており、運動の時間では、体を動かしながらオリンピックバリューを考えていきたいと伝え、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備体操後、準備運動として、ダイナミックストレッチを実施。
・主運動では、ショートトラックをイメージしたリレー(全2回)を実施。班毎にマーカーを置いた円のコースの外側を雑巾がけをしながら回る。必ず1人2周回り、班で合計20周回った後にカラーコーンを倒した時点でゴールとするルールで実施。2回目は必ず1人1周回り、班で合計15周回るルールに変更して行った。



・運動の時間を振り返り、普段は行わない低い姿勢での運動で疲れたと思うが、班毎に力を合わせて実施してくれていて、励まし合いや声掛け、回数の振り分け等の話し合いもしっかりとできていて素晴らしい。座学の時間は、オリンピックの歴史や、オリンピックバリューの3つの価値について、さらに深掘りして考えていきたいと伝え、授業終了。

- **オリンピック** : 勅使川原 郁恵 先生 (スケート/ショートトラック)
【出場オリンピック/長野1998冬季大会、ソルトレークシティ2002冬季大会、トリノ2006冬季大会】
- **期 日** : 2022年7月14日(木)
- **ク ラ ス** : 2年1組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・オリンピックの歴史や、オリンピックバリューについて、自身の経験も踏まえながら考えていきたいと授業の目的を確認し、実際に競技で使用したスケート靴のブレードを見せながら、包丁のように鋭いが、スピードに乗るためには鋭さと長さが必要なことを説明。その後、映像を見せながら3歳から競技を始め、長野1998、ソルトレークシティ2002、トリノ2006の冬季3大会に連続で出場したと自己紹介。練習会場への送迎等、両親の支えがあったからこそ、練習を続けることができ、オリンピックに出場することができたと伝える。

○個人ワーク～グループワーク 等



発問：運動の時間を振り返り、感じたことをオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「少しでも早くなるように順番を工夫した」「諦めなかった」等

フレンドシップ：「お互いを理解したり相手を思いやることができた」「お互いに声を掛け合った」等

リスペクト：「ルールを守ってフェアプレーすることができた」等



・座学の時間を振り返り、皆に考えてもらったようにオリンピックバリューはオリンピックに出場した選手だけのものではなく、日常生活にも当てはめて考えることができる。今後、高校進学や就職等、生活環境が変化していくが、自分自身のことだけでなく、相手の気持ちになって考えたりと相手を理解することが重要なので、オリンピックバリューの3つの価値を思い出しながら、より良い生活を送ってほしい。今後、オリンピックを観戦する機会があれば今日の授業を思い出しながら、応援してほしいと伝え、授業終了。

- **オリンピック** : 勅使川原 郁恵 先生 (スケート/ショートトラック)
【出場オリンピック/長野1998冬季大会、ソルトレークシティ2002冬季大会、トリノ2006冬季大会】
- **期 日** : 2022年7月14日(木)
- **ク ラ ス** : 2年2組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・スケート/ショートトラックのスピードスケート競技で3大会(長野1998、ソルトレークシティ2002、トリノ2006の各冬季大会)に出場したと自己紹介後、スケート競技について、スピードスケート、フィギュアスケート、ショートトラックの3種別があり、スピードスケートは400mのコースを使用するが、ショートトラックはフィギュアスケートと同じスケートリンクを使用し、1周111.12mのコースを4人や6人で一斉にスタートし、時速50km程度の速さで滑走して順位を競うと説明。運動の時間では、オリンピックバリューを頭の片隅に置いて、楽しみながら参加してほしいと伝え、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備体操後、準備運動として、ダイナミックストレッチを実施。
・主運動では、ショートトラックをイメージしたリレー(全3回)を実施。班毎にマーカーを置いた円のコースの外側を雑巾がけをしながら回る。必ず1人2周回り、班で合計10周回った後にカラーコーンを倒した時点でゴールとするルールで実施。2回目以降は必ず1人1周回るルールに変更して行った。



・マーカーに触れた班はその場で足踏みを10秒間行った。ルールをしっかりと守り、マーカーに触れたことを申告してくれた。失敗を申告することはすごく勇気が必要であり、素晴らしかった。座学の時間では、オリンピックの歴史や、オリンピックバリューの3つの価値について、運動の時間に感じたことも踏まえながら、さらに深掘りして考えていきたいと伝え、授業終了。

- **オリンピック** : 勅使川原 郁恵 先生 (スケート/ショートトラック)
【出場オリンピック/長野1998冬季大会、ソルトレークシティ2002冬季大会、トリノ2006冬季大会】
- **期 日** : 2022年7月14日(木)
- **ク ラ ス** : 2年2組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・映像を見せながら3歳からスケートを始め、小学5年時から本格的に競技を始めたことと自己紹介。オリンピックシンボルについて、5つの輪は5大陸を表し、使用されている5色と背景の白色でほぼ全ての国旗を描くことができると説明。2人の姉と一緒に幼少期からスケートを始め、学校から帰宅すると家族でスケート場に行くことが日課だった。皆と同じ中学2年時に日本一になることができ、常に追われる立場で悩んだ時期もあったが、日本を背負っている立場を受け入れたことで、競技だけではなく、勉強にもベストを尽くし、取り組むことができたこと話す。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問：運動の時間を振り返り、感じたことをオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「諦めずに楽しく取り組むことができた」「一生懸命頑張って1位を目指した」等
 フレンドシップ：「仲間と協力して思いやりを持った行動ができた」「お互いに励ましや応援ができた」等
 リスペクト：「ルールを守ってフェアプレーすることができた」等



・座学の時間を振り返り、挫折することもあると思うが、諦めない気持ちを持ち続けることで、必ず良い方向に進むので、様々なことに挑戦し、支えてくれる仲間や家族に感謝しながら過ごしてほしい。今後の日常生活でもオリンピックバリューの3つの価値を意識しながら過ごし、より良い人生を送ってほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■ 修了証贈呈

